

埋没法抜糸術とは

埋没法抜糸術とは、埋没法により体内に埋め込まれていた糸を抜糸する手術です。糸が埋まっていると予測される表皮側からまぶたの皮膚を切開し、糸を取り除きます。埋没法糸が容易に見つからない場合、傷を長く取る必要があり、傷が大きくなった場合には縫合処置を行います。

埋没法抜糸術後の状態・ケアについて

- ・当日は手術部位に触れたり、濡らさないようご注意ください。術後24時間経過後はまぶた周辺も含め洗顔フォームを使用して洗顔可能です。
- ・術後1週間程度は血流が良くなることでの腫れを防ぐため、熱いお風呂や長時間の入浴を避け、ぬるま湯での軽いシャワー程度にさせていただくことをおすすめします。
- ・アイメイクは3日後から可能です。お目元以外のメイクは手術後から可能です。
- ・大きな腫れは、1週間程度で引いていきます。
- ・内出血については、個人差がありますが数週間前後で消失します。
- ・飲酒は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、3日ほどお控えください。
- ・運動は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、軽い運動は術後3日、激しい運動は1週間ほどお控えください。
- ・術後3日間はコンタクトレンズの装着はお控えください。術後しばらくは瞼の裏に違和感があったり、目がゴロゴロすると感じる場合があります。コンタクトレンズは、違和感がなくなってからの使用をおすすめいたします。

※経過観察をする目的で施術部位の写真を撮らせていただきます。撮影させていただいた写真に関しては、厳重に保管し患者様との経過観察以外で無断使用することはありませんのでご安心ください。
※気になる症状がある場合には1ヶ月程度様子を見てください。1ヶ月以上経過しても違和感が継続している場合、クリニックまでご連絡ください。

※授乳中の方は、術後48時間は断乳して頂きますようお願い致します。

埋没法抜糸術で生じる可能性のあるリスクについて

【内出血】

目の周辺に内出血が生じる場合があります。最初は青黒い色みでその後黄色→肌色と変化していきます。出現や消失には個人差がありますが、数週間かかる場合があります。

【左右差】

元々の左右差は、糸を抜糸しても改善されることはありません。また、埋没されていた時の皮膚の癖や折り目、加齢によるたるみの程度により糸を抜糸しても完全に手術前のまぶたの状態には戻らない場合があります。

【痛み】

術中は麻酔の効果で痛みはありませんが、術後麻酔が切れると痛む場合があります。痛みがある場合は処方される内服薬をお飲みください。

【腫れ】

当日より若干の腫れが起こります。概ね1週間で腫れは引いていきます。

【感染】

術後、感染が生じると傷口の治りが悪くなったり、腫れが強くなる場合があります。場合により、抗生剤の内服や抜糸等の外科的処置が必要となります。

【肥厚性瘢痕（ケロイド）】

ケロイド体質の方は傷が治る過程で皮膚が盛り上がりしてしまう場合があります。その場合、別途瘢痕に対する治療が必要になります。

【傷跡】

表皮側からまぶたの皮膚を切開する手術のため、術後1週間ほどは傷が目立つことがあります。

【糸が抜けない】

状態によっては、全て取り除けなかったり抜糸できない可能性があります。

埋没法抜糸術をお受けいただけない方

妊娠中の方、妊娠の可能性がある方、親権者の同意がない未成年の方、まぶたに怪我や炎症がある方、麻酔剤にアレルギーをお持ちの方は手術を受けられません。

